

快テレ君 VS-T500

ワイヤレスステレオスピーカーシステム

取扱説明書

製品の構成

本製品をお使いになる前に、すべてそろっているかどうかを確かめてください。

スピーカー（受信機）.....	1	ステレオイヤホン(2.0 m).....	1
送信機.....	1	イヤーパッド.....	2
専用ACアダプター.....	1	(イヤホンに装着済み、ポリウレタン製).....	2
専用充電式ニッケル水素電池(単3形).....	3	簡単マニュアル.....	1
接続コード(1.0 m).....	1	保証書.....	1
変換コード(0.1 m).....	1	取扱説明書(本紙).....	1
光デジタルケーブル(1.5 m).....	1		

このたびは、オトモアの製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」を最後までよく読みのうえ、「安全上のご注意」に従い正しくお使いください。お読みになったあとは、大切に保管してください。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために、必ずお守りください。

- ご使用前に本紙をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この安全上のご注意、取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

絵表示の例

	危険 この表示の欄は「人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容」を示しています。
	警告 この表示の欄は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
	注意 この表示の欄は「人が軽傷を負う可能性が想定される内容または物的損害のみが生ずることが想定される内容」を示しています。

警告

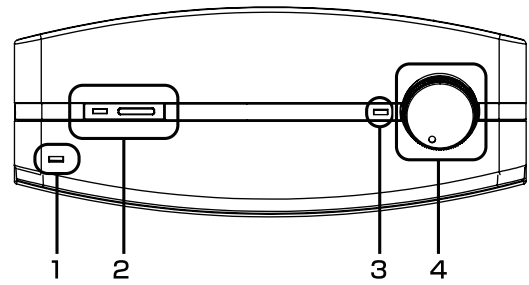
- 異常があったときは、電源プラグを抜く
 - 内部に金属や水などの液体が入ったとき
 - 落下などで本体（外装ケース）が破損したとき
 - 煙や臭気、異音が出たとき
 - ACアダプターが破損・変形しているとき
 - 本体に触れビビリと電気を感ずるとき
 - 手で触れられないほど熱いときそのまま使うと、火災・感電の原因になります。
- 本機の上に植木鉢、液体入りの容器や小さな金属物を置かない
 - こぼれたり、中に入ったとき、火災・感電の原因になります。
- 風呂場やシャワー室では使用しない
 - 火災・感電の原因になります。
- ACアダプターやスピーカー、送信機は布や布団でおおったりつつんだり、ホットカーペットなどの上やコタツの中で使用しない
 - 熱がこもり、ケースが変形し、火災の原因となります。
 - 風通しの良い状態で使用してください。
- この機器は、日本国内のみで使用する
 - 海外では、国によって電圧使用の制限があるため、本機を使用すると、その国の法律で罰せられることがあります。
- 付属以外のACアダプターは使わない
 - 機器本来の性能が出ないことや、電圧容量不足による発熱から火災・感電の原因となる場合があります。

注意

- 油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多い場所に置かない
 - 電気が油分や水分、ほこりに伝わり、火災・感電の原因となることがあります。
- 不安定な場所に置かない
 - 高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置いて倒れたり落下すると、けがや製品の故障の原因となることがあります。
- 電源を入れる時は徐々に音量を上げる
 - 電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない
 - タコ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となることがあります。
 - 船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。
- ACアダプターが破損するようことをしない(傷つける、加工する、無理に曲げる、熱器具に近づける、加熱する、ねじる、引張る、束ねる、重い物を載せるなど)
 - 痛んだままの使用は、火災・感電の原因となることがあります。
- ACアダプター本体に電源コードをグルグル巻き付けて使用しない
 - 異常発熱により、火災・感電の原因となることがあります。
- 本機(ACアダプター)を乱暴に扱わない
 - 落としたり、強い衝撃を与えると、機器が壊れ、けがや火災・感電の原因となることがあります。
- ACアダプターのプラグは根元まで確実に差し込む
 - 差し込みが不完全だと感電や発熱により火災の原因となることがあります。
 - 傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。
- ACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らない
 - コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
 - 必ずACアダプター本体を持って抜いてください。
- ACアダプターのプラグのほこりなどは定期的にとる
 - プラグの羽や羽の付近にはほこりや金属物が付着していると、火災や感電の原因となることがあります。
 - 定期的ACアダプターを抜き、乾いた布などで拭いてください。
- 長時間ご使用にならないときは、必ずACアダプターをコンセントから抜く
 - 製品の仕様により、本体部のスイッチを操作することでLEDが全て消えた状態となり、ACアダプターをコンセントから抜いた状態と変わらなくなる場合がありますが、電源の供給は停止していません。
 - 製品を電源から完全に遮断するためには、ACアダプターをコンセントから抜く必要があります。
 - 送信機およびスピーカーをACアダプターで使用するときはコンセントの近くでACアダプターに容易に手が届くように設置してください。
 - 火災の原因となることがあります。
- 異常に温度が高くなる場所に置かない
 - 外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因となることがあります。
 - 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所、ストーブの近くでは特にご注意ください。
- 本機を使用するときは、音量を上げすぎない
 - 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力が大きく損なわれるの原因になります。
- 本機に水を入れたり、ぬらさない
 - 火災・感電の原因となることがあります。
 - 雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
- 分解・改造しない
 - 内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となることがあります。
 - 内部の点検・整備・修理は、販売店にご依頼ください。
- 心臓ペースメーカーをお使いの方は使用しない
 - ペースメーカーに影響を与える可能性があります。
- 病院などの医療機関、医療機器の近くでは使用しない
 - 機器に影響を与える可能性があります。
- 立ち上がるときに本機を押さえたり、踏んだりして体重をかけない
 - 破損やけがの原因となることがあります。
- スピーカーを持つときは図のように持ち、落とさないように注意する
 - 破損やけがの原因となることがあります。

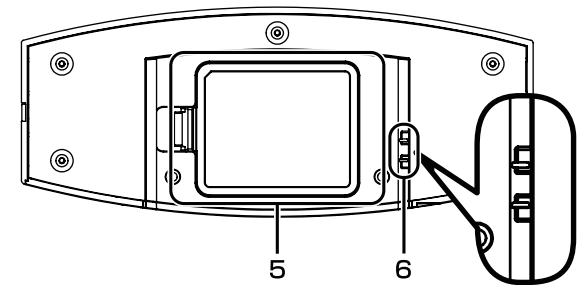
各部の名称とはたらき

● スピーカー（天面）



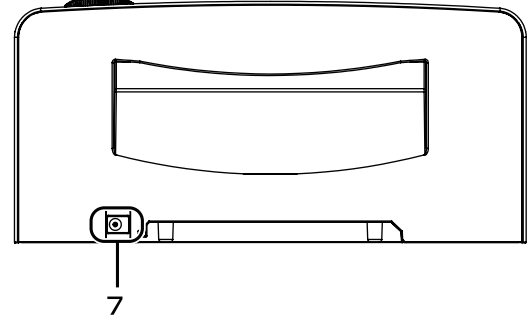
1. 充電LEDランプ
スピーカーの充電中に赤色に点灯します。
2. しっかり音スイッチ
テレビなどのセリフを聞きやすくするときに押します。
3. 電源LEDランプ
スピーカーの電源を入れた時に光ります。
4. 電源 / 音量ダイヤル
電源OFFの状態から、右に回し、パチツと音がすると電源がONLします。
電源ONの状態から一番左まで回し、パチツと音がすると電源がOFFします。
音量は右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。
電源OFFした後は、必ず少し時間をおいてから電源 / 音量ダイヤルをゆっくり右に回して、電源ONしてください。

● スピーカー（底面）



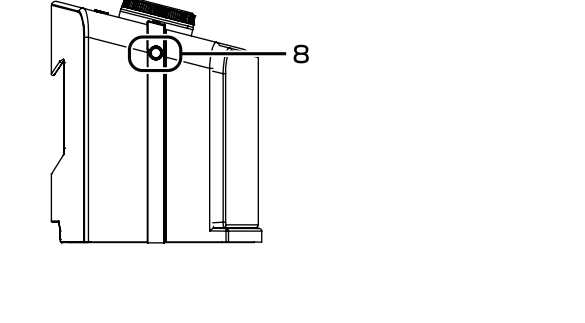
5. 電池ぶた
電池を出し入れするときに外します。
6. 充電端子
送信機の充電端子と接触すると充電が始まります。

● スピーカー（背面）



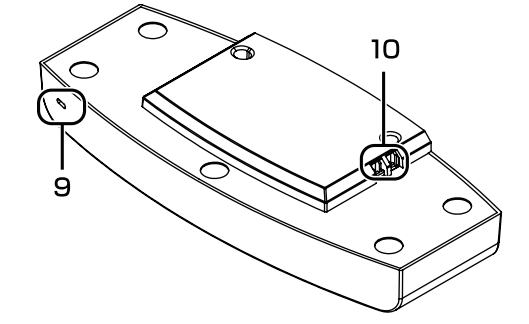
7. 電源(DC IN 5V)入力端子
追加購入の専用ACアダプター(33-18-0520-BE)を接続することができます。
ご使用方法は裏面をご参照ください。

● スピーカー（左側面）



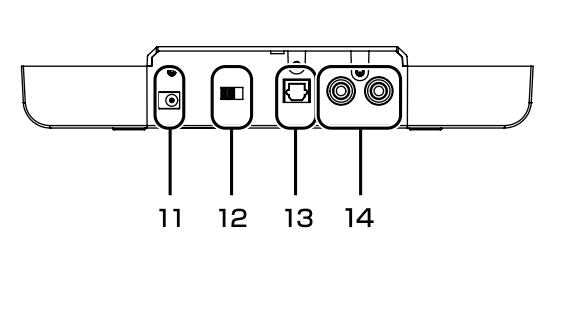
8. イヤホンジャック
イヤホンで再生する時に接続します。

● 送信機（前面）



9. スタンバイ/オンLEDランプ
送信機のACアダプターを接続すると電源が入り、点灯します。
10. 充電端子
スピーカーの充電端子と接触すると充電が始まります。

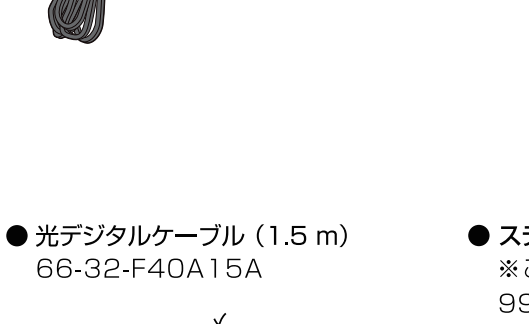
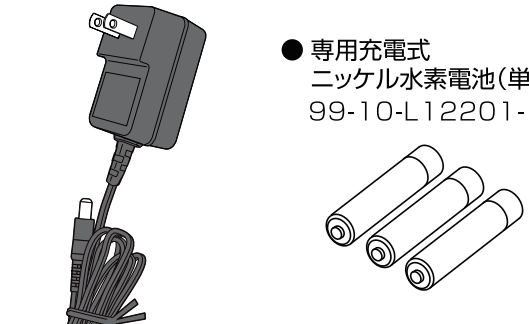
● 送信機（背面）



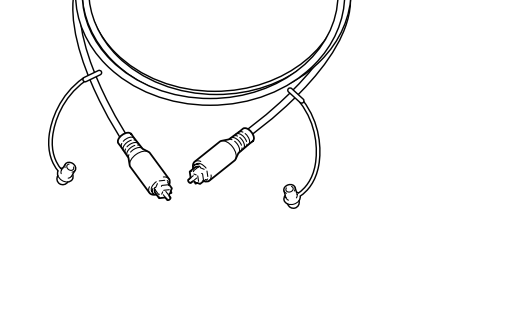
11. 電源(DC IN 5V)入力端子
付属の専用ACアダプターを接続します。
12. 音声入力切替スイッチ
入力1(光デジタル入力)と入力2(アナログ入力)を切り替えます。
13. 入力1端子
光デジタルケーブルを使って接続機器と接続します。
14. 入力2端子
接続コードを使って接続機器と接続します。

● 専用ACアダプター

33-18-0520-BE

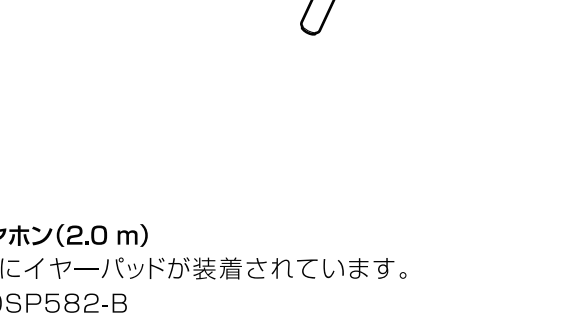
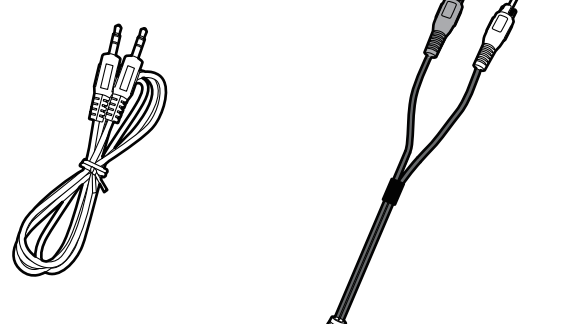


● 光デジタルケーブル(1.5 m)
66-32-F40A15A



● 接続コード(1.0 m)

66-15-EIS500-15



● ステレオイヤホン(2.0 m)

※ご購入時にイヤーパッドが装着されています。
99-21-EDSP582-B

電池についての安全上のご注意

電池は使用形態や使用環境、保存状態などによって、漏液・破裂・発熱・発火などで、けがや機器故障の原因となることがありますので、下記の注意事項を必ずお守りください。

本機では以下の電池をお使いいただけます。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

種 類	本機での充電	使用
充電電池		
単3 付属の専用ニッケル水素電池	○	○
単3 市販ニッケル水素電池	×	○
単3 アルカリ乾電池	×	○
乾電池		
単3 マンガン乾電池	×	○

充電電池について

危険

- 電池の液が目に入らないよう十分注意する。
万一目に入ったときは失明などのおそれがありますので、目をこすらず水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 充電は本機を使用する。
- 本機の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 付属の電池は本機以外で使用しない。
- 火の中に投入したり、加熱、分解、改造などしたり、ショートさせたりしない。
- 電池に直接はんだ付けしない。
- 電池を変形させたり、(+)端子部にあるガス抜き構造の穴をふさがない。
- 釘をさす、ハンマーで叩く、投げつけるなどして強い衝撃を与えない。
- 火のそばや直射日光の当たるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。

警告

- 電池を水などでぬらさない。
- 電池は、乳幼児の手の届かないところに置く。
- コイン、キー、ネックレスなどの貴金属と一緒に携帯・保管しない。
- 筒型電池の外装ビニールチューブや電池パックのケースなど、はがしたり、解体したりしない。
- 充電が所定時間を超えても完了しないときは、充電をやめる。
- 電子レンジや高圧容器に入れない。
- 電池の使用、充電、保管時に異常を感じたら使用しない。
- 発熱、発熱、変色、変形、その他今までと異なることは、発熱、破裂、発火のおそれがあります。
- 電池が漏液したり異臭がするときは、ただちに火気から遠ざける。
- 電解液に引かれ、破裂、発火のおそれがあります。
- ご使用済みの電池は一般家庭ごみとして棄てないで、最寄りの「リサイクル協力店」にご持参いただくか、設置してある「小形充電式電池リサイクルBOX」に入れてください。

注意

- 電池の充電や放電中に、可燃物を載せたり、覆ったりしない。
- 電池は所定の充電時間以上充電しない。
- 電池の使用後は機器のスイッチを切る。
- 電池を使用しないとき、長期間機器を使用しないときは、電池を取り出しておく。
- 電池を廃棄する際、リード線や金属端子が露出しているものは、ビニールテープなどで絶縁する。
- 電池をはじめて使用する際、さびや異臭、発熱、その他異常と思われたときは使用しない。



お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子(金属部分)にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。
充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、
社団法人電池工業会ホームページ
<http://www.baij.or.jp/> を参照してください。

電波に関するご注意

本機は、2.4 GHzの周波数帯の電波を使用しています。この周波数の電波は、次に示すようにいろいろな機器が使用しています。

- ・コードレスフォン
- ・コードレスファクシミリ
- ・電子レンジ
- ・無線 LAN 機器
- ・Bluetooth
- ・ワイヤレス AV 機器
- ・ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- ・マイクロ波治療機器類

これらの機器と本機を同時に使用すると、電波の干渉により、音がとれて雑音のように聞こえたり、音が出なくなったりすることがあります。

受信状況の改善方法としては次の方法があります。

- ・電波が発生している相手機器の電源を切る
- ・干渉している機器との距離を離して設置する

本機のカバーをはずしたり、改造したりしないでください。

■ 機器認定について

本機は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。

- ・分譲 / 改造すること
- ・本機に貼り付けられている証明ラベルをはがすこと

本機のカバーをはずしたり、改造したりしないでください。

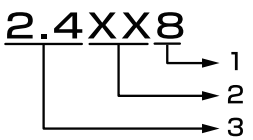
■ 電波到達範囲

送信機から電波が届く範囲は約 30 m です。ただし、送信機の位置やお使いになる場所の状況により狭くなる場合があります。

■ 周波数について

周波数表示の見かた

1. 「8」 想定される干渉距離 (約 80 m) を表します。
2. 「XX」 その他の変調方式を表します。
3. 「2.4」 GHz 帯を使用する無線設備を表します。



この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許を要する無線局) および特定小電力無線局 (免許を要しない無線局) 並びにアマチュア無線局 (免許を要する無線局) が運用されています。

この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合は、すみやかに電波の発射を停止したうえ、お問い合わせ窓口(裏面)へご連絡いただき、混雑回避のための処置など(たとえば、パーティションの設置など)についてご相談ください。

その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、お問い合わせ窓口(裏面)へご相談ください。

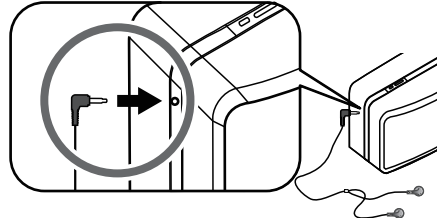
付属イヤホン使用上のご注意

- イヤホンは、コードを引っ張らずに必ず本体を持ちながら耳からはずしてください。イヤーパッドがはずれる場合があります。
- イヤーパッドは消耗品ですので、長期の使用・保管により劣化します。劣化した場合は、お問い合わせ窓口へご相談ください。
- イヤホンを使用中、肌に合わないと感じたときは、ただちにご使用を中止してください。
- イヤホンプラグは、コードを引っ張らずに必ずプラグを持ちながら抜き差ししてください。
- プラグ部を汚れたままにしておくとう音質が悪くなり、音声が届かなくなることがあります。ときどき柔らかい布でかぶきし、清潔に保ってください。
- 付属のイヤホンはステレオ再生専用になっておりますので、モノラルラジオ等のモノラルイヤホンジャックに接続した場合、イヤホンの右から音が出ません。
- イヤーパッドを誤って飲み込まないように、小児の手の届かないところに保管してください。

イヤホンの使いかた

本機では、付属のイヤホンまたはお手持ちのイヤホンを使って、スピーカーの音声を聴くことができます。

- イヤホンのプラグを、スピーカー側面のイヤホンジャックに差し込みます。
- 音声出力が自動的にスピーカーからイヤホンに切り替わります。
- スピーカーとイヤホンを同時に使用することはできません。
- 音声入力用の接続コードを差し込まないでください。



仕様

■ スピーカー

形式.....密閉式アクティブスピーカーシステム / 防磁設計 (JEITA)
再生周波数帯域.....100 Hz ~ 20 000 Hz
電源.....DC3.6 V (付属専用充電式ニッケル水素電池使用時)
またはDC5 V (別売ACアダプター使用時)
連続使用時間.....約 14 時間 *1
(専用充電電池使用 満充電時 5 mW+5 mW出力時)
使用スピーカー.....Φ 50 mm
インピーダンス 8 Ω × 2 本

■ 付属品

専用ACアダプター (DC5 V 2 A).....1
専用充電式ニッケル水素電池 (単3形).....3
接続コード (1.0 m).....1
変換コード (0.1 m).....1
光デジタルケーブル (1.5 m).....1
ステレオイヤホン(2.0 m).....1
イヤーパッド (イヤホンに装着済み、ポリウレタン製).....2
簡単マニュアル.....1
保証書.....1
取扱説明書 (本紙)

■ 送信機

入力端子
入力 1.....光デジタル入力端子 (角型)
リアPCMのみ対応
サンプリング周波数 最大 48 kHzに対応
入力 2.....RCA ステレオピンジャック
電源.....DC5 V (付属ACアダプターを使用)
質量.....約 140 g
待機時消費電力 (音声入力無しで受信機と通信していない状態).....0.5 W

■ 一般仕様

伝送方式.....圧縮 2.4 GHz デジタル無線伝送
到達距離.....約 30 m (お使いの環境により異なります)
変調方式.....その他の方式

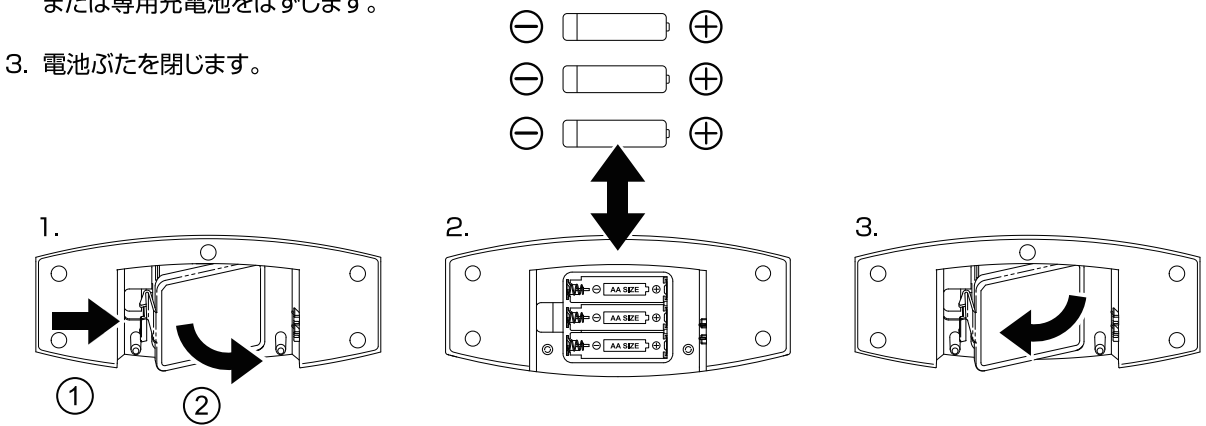
*1 周囲の温度や使用状況により連続使用時間は異なる場合があります。
※本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

専用充電電池の入れ方／はずし方

1. スピーカー底面の電池ぶたを矢印部分を押し開けます。

2. 付属の専用充電電池3本をプラス(+)、マイナス(−)の極性に合わせて入れます。
または専用充電電池をはずします。

3. 電池ぶたを閉じます。



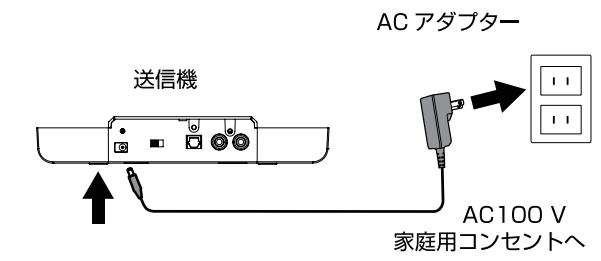
※付属の専用充電電池以外は充電できません。

注意
● 電池を誤って飲み込まないように、小児の手の届かないところに保管してください。

専用充電電池を充電

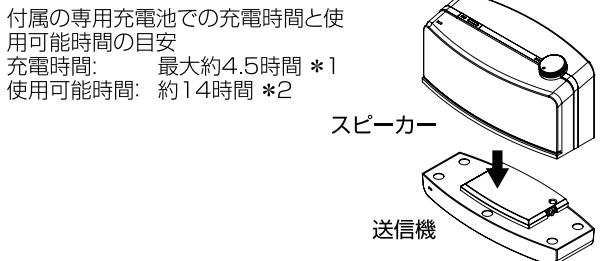
スピーカーを初めてお使いになるときは、必ず専用充電電池を充電してください。
付属の専用充電電池以外は充電できません。

1. 送信機の電源 (DC IN 5 V) 入力端子に付属のACアダプターを接続し、下図のようにコンセントへ挿しこみます。



2. スピーカーと送信機の充電端子があたようにセットします。

充電が始まると、スピーカーの充電 LED ランプが赤色に点灯します。充電が完了すると消灯します (最長約 4.5 時間)。



付属の専用充電電池での充電時間と使用可能時間の目安
充電時間: 最大約4.5時間 *1
使用可能時間: 約14時間 *2

*1 充電されていない充電電池を満充電する場合の目安です。充電されている充電電池の場合、充電時間は短くなります。
*2 周囲の温度や使用状況により使用可能時間は異なる場合があります。

● 専用充電電池の使用時間が著しく短くなった場合は専用充電電池の寿命が考えられます。新しい専用充電電池と取り替えてください。専用充電電池の購入については弊社部品受注センターへお問い合わせください。
● 専用充電電池の充電が不完全な状態で使用すると、音が出ない場合がありますが、故障ではありません。スピーカーは完全に充電してからお使いください。
● スピーカーの電源/音量ダイヤルの左にあるLEDランプは通常緑色に点灯しますが、スピーカーの電池残量が少なくなってくると、オレンジ色に点灯します。オレンジ色に点灯した場合、スピーカーを充電してお使いください。
● スピーカー、送信機の充電端子は時々乾いた布で拭いてください。
● 充電中にも使用できます。

注意
● 必ず付属のACアダプターをご使用ください。電圧やプラグの極性が異なるACアダプターを使うと故障の原因となります。
● 付属の専用充電電池のみ充電できます。市販の充電電池や乾電池は充電できません。
● スピーカーの充電中に充電電池が温くなる場合がありますが、異常ではありません。
● 気温0℃〜40℃の環境で充電してください。この温度範囲外で充電されると電池が劣化する場合があります。
● 充電電池は使用していない間も少しずつ放電します。使用せずに放置した電池は充電してからお使いください。

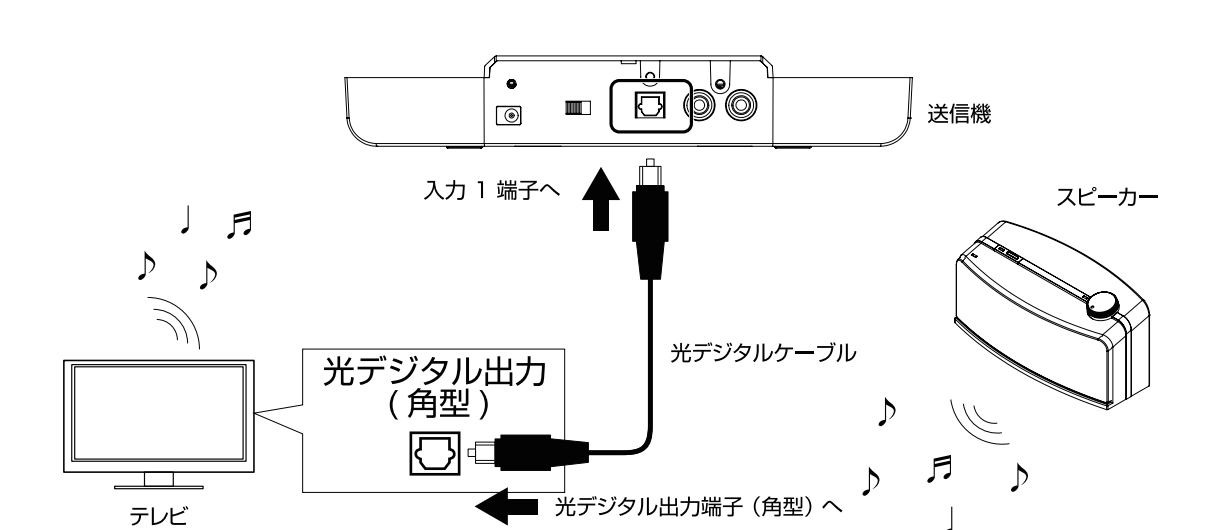
テレビ／AV 機器と接続

本機をテレビ／AV 機器と接続すると、本機でテレビ／AV 機器の音声を聴くことができます。接続するときは、テレビ／AV 機器の取扱説明書をよくお読みください。
接続方法は、1〜4の通りあります。

●テレビ／AV機器とスピーカーの両方で音声を聞く

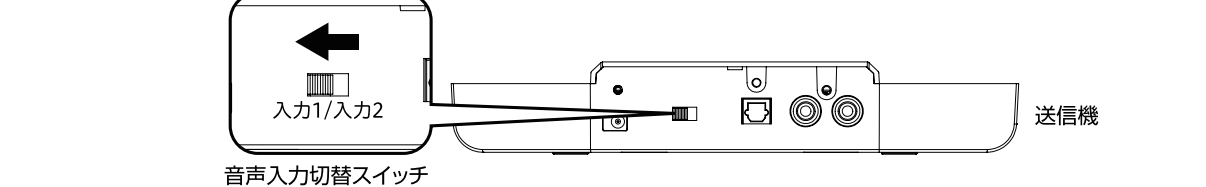
1. テレビ／AV機器の光デジタル出力端子につく場合

① 付属の光デジタルケーブルを使って、テレビ／AV機器の光デジタル出力端子 (角型) と送信機の入力 1 端子を接続します。光デジタルケーブル先端のキャップは、はすしてご使用ください。



※テレビ／AV機器によって端子名称は「光デジタル音声出力」、「デジタル音声出力」、「DIGITAL OUT」、「OPTICAL OUT」など異なります。
※光デジタルケーブルは外部からの衝撃や、折り曲げに対して弱いので、接続する時はプラグを持って丁寧に扱いください。

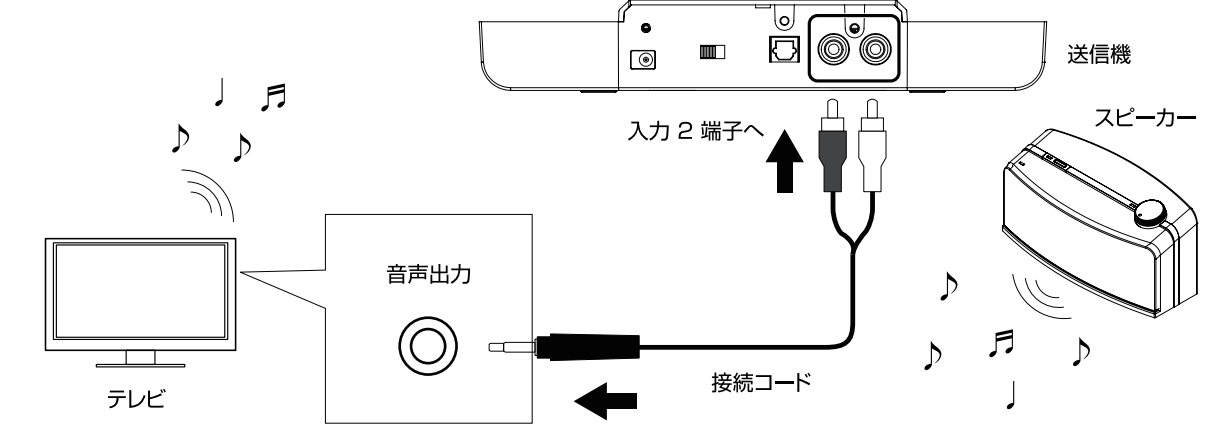
② 送信機背面の音声入力切替スイッチの位置を左側の入力 1 にします。(出荷時の音声入力切替スイッチ位置は入力 2 です。)



● テレビ／AV機器に光デジタル出力端子 (角型) がない場合は、この方法で接続できません。他の方法を参照してください。
● 光デジタル入力信号はリニアPCMのみに対応しています。音声が出ない場合、またはノイズが出た場合は、テレビ／AV機器側のデジタル音声出力の設定がリニアPCMになっているかを確認してください。設定方法についてはテレビ／AV機器の取扱説明書をよくお読みください。
● 光デジタル入力信号のサンプリング周波数は48 kHz以下に対応しています。音声が出ない場合、またはノイズが出た場合は、テレビ／AV機器側の光デジタル音声出力のサンプリング周波数が48 kHz以下かどうかテレビ／AV機器の取扱説明書で確認してください。

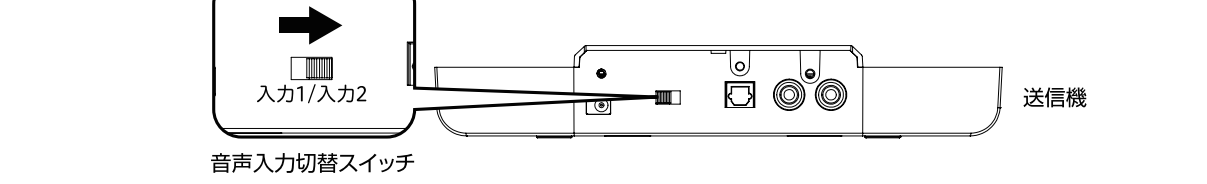
2. テレビ／AV機器のミニジャックにつく場合

① 付属の接続コードを使ってテレビ／AV機器のミニジャック出力端子と送信機の入力 2 端子を接続します。



※テレビ／AV機器によって端子名称は「音声出力」、「モニター出力」、「OUTPUT」など異なります。
※テレビ／AV機器には同じ形の入力端子もありますので、表示をよくご確認ください。

② 送信機背面の音声入力切替スイッチの位置を右側の入力 2 にします。(出荷時の音声入力切替スイッチ位置は入力 2 です。)

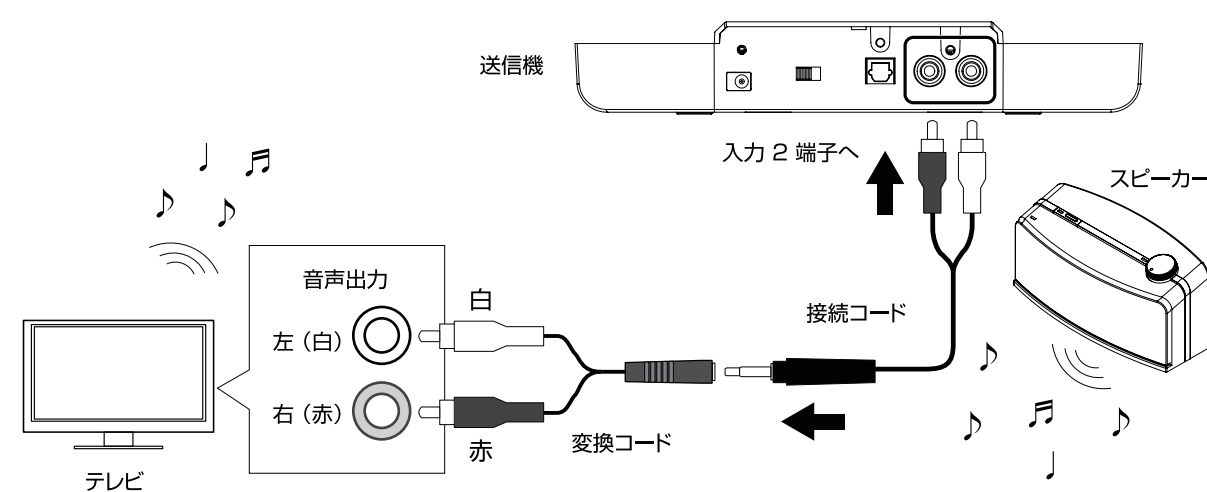


● テレビ／AV機器側で設定を変更しないと音声を出力できない場合がありますのでテレビ／AV機器の取扱説明書をよくご確認ください。
● テレビスピーカーからも音声が出力するように設定できるテレビもあります。テレビの取扱説明書をよくご確認ください。

3. テレビ／AV機器の赤／白の丸い音声出力端子につく場合

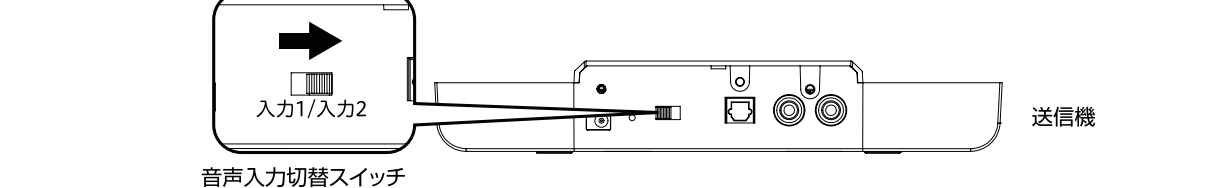
① 付属の接続コードのステレオミニプラグ (オス) と変換コードのステレオミニジャック (メス) をつなぎます。

② ①の接続コードを使ってテレビ／AV機器の音声出力端子と送信機の入力 2 端子を接続します。



※テレビ／AV機器によって端子名称は「音声出力」、「モニター出力」、「OUTPUT」など異なります。
※テレビ／AV機器には同じ形の入力端子もありますので、表示をよくご確認ください。

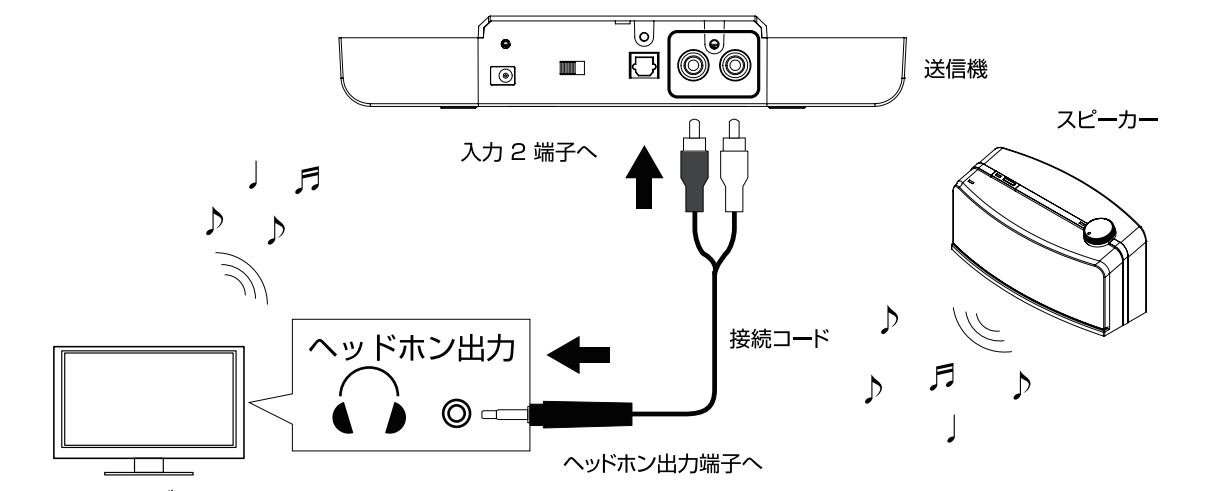
③ 送信機背面の音声入力切替スイッチの位置を右側の入力 2 にします。(出荷時の音声入力切替スイッチ位置は入力 2 です。)



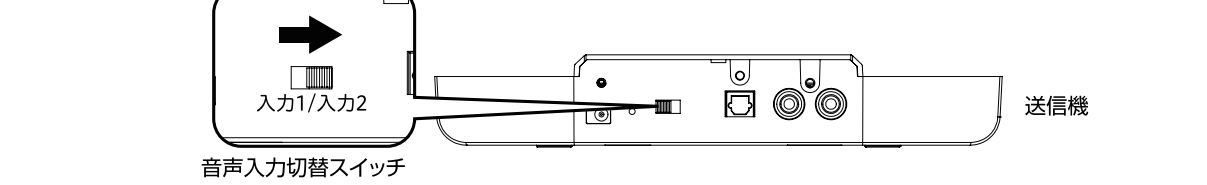
● 接続コードをテレビ／AV機器に接続する場合は必ず音声出力端子の色 (赤と白) をあわせてください。
● テレビに音声出力端子がない場合は、この方法で接続できません。他の方法を参照してください。
● テレビ／AV機器側で設定を変更しないと音声を出力できない場合がありますのでテレビ／AV機器の取扱説明書をよくご確認ください。

4. テレビ／AV機器に音声出力端子がない場合 (ヘッドホン出力端子がある場合)

① 接続コードを使ってテレビ／AV機器のヘッドホン出力端子と送信機の入力 2 端子を接続します。



② 送信機背面の音声入力切替スイッチの位置を右側の入力 2 にします。(出荷時の音声入力切替スイッチ位置は入力 2 です。)



● テレビ／AV機器のヘッドホン出力端子につなぎます。接続する機器によってテレビ／AV機器からは音を出せなかったり、テレビ／AV機器側で設定を変更しないと音声を出力できない場合があります。接続機器の取扱説明書をよくご確認ください。

●スピーカーのみで音声を聴く

上記4.と同じく、テレビ／AV機器のヘッドホン出力端子に接続します。

● テレビ側のヘッドホン出力設定をテレビから音を出さない設定にしてください。テレビの取扱説明書をよくご確認ください。
● モノラルテレビと接続した場合、左側のスピーカーからのみ音声が出力されます。
● テレビ／AV機器で音量を調整すると、スピーカーの音量が変わります。テレビ／AV機器の音量が大きすぎると、スピーカーの音がはずむことがあります。テレビ／AV機器の音量を下げてから、スピーカーの音量を上げてください。
● テレビ／AV機器の音量を下げられない場合、スピーカーの音量をひすまない程度に下げてください。

● スピーカーはテレビの近くでお使いいただけますが、設置した場所によってテレビに色ムラなどが生じることがあります。色ムラが生じるときは、テレビの電源をオフしてから、15分〜30分後に再度電源をオンにしてください。テレビの自己消磁機能より色ムラが改善されます。それでも色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビをさらに離して設置してください。
● 磁気の影響を受けやすい機器 (フロッピーディスク、カセットテープ、ビデオテープなど) は、本機から離して設置してください。
● 本機の近くに磁気を発生するもの (磁石など) が置かれているときは、本機との相互作用により、テレビに色ムラが生じることがあります。設置するときにはご注意ください。

本機の使いかた

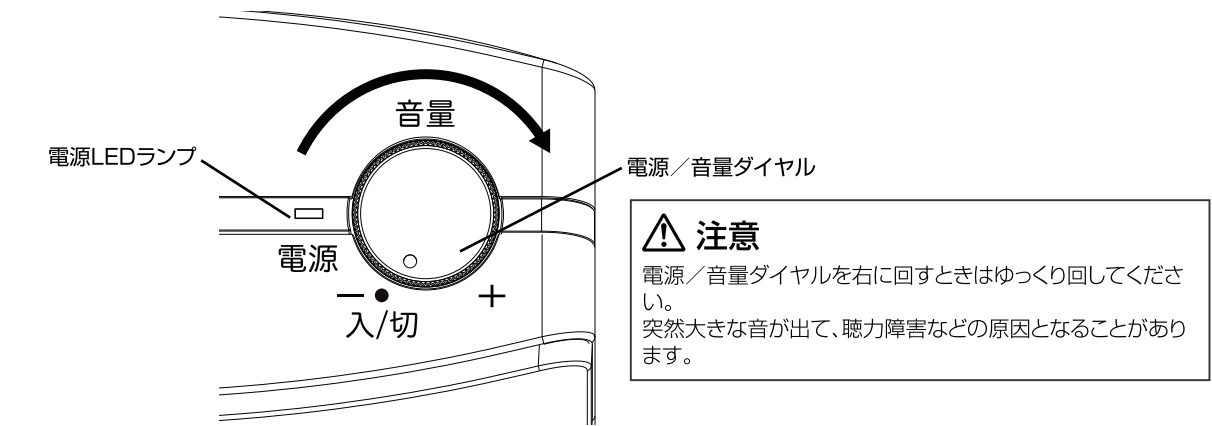
1. 送信機の電源 (DC IN 5 V) 入力端子に付属の送信機用ACアダプターを接続し、コンセントに差し込むと送信機の電源が入ります。

送信機前面のスタンバイ / オンLEDランプが緑色で3秒間点滅した後に入力信号がない場合は赤色に点灯、入力信号がある場合は緑色に点灯します。

2. テレビ／AV機器と接続した入力端子に合わせて、送信機の音声入力切替スイッチを合わせます。
音声入力切替スイッチが接続している端子と異なる場合、音がでません。「テレビ／AV機器と接続」の項をよくご確認ください。適切なスイッチ位置にあわせてください。

3. テレビ／AV機器の電源が入っているかどうかご確認ください。入っていない場合は電源を入れてください。

4. 電源OFF (電源LEDランプ消灯) の状態からスピーカーの電源 / 音量ダイヤルをパチッと音がするまで右に回し、電源を入れます。
電源 / 音量ダイヤルの左にある電源LEDランプが点灯し、テレビ / AV機器の音声が出力されます。



5. 電源 / 音量ダイヤルを回して音量を調節します。

右に回すと音量が大きく、左に回すと音量が小さくなります。

6. 本機の使用を終えるときは、スピーカーの電源 / 音量ダイヤルを左にパチッと音がするまで回します。
スピーカーの電源 / 音量ダイヤルの左にある電源LEDランプが消灯します。
電源OFFした後は、必ず少し時間をおいてから電源 / 音量ダイヤルをゆっくり右に回して、電源ONしてください。

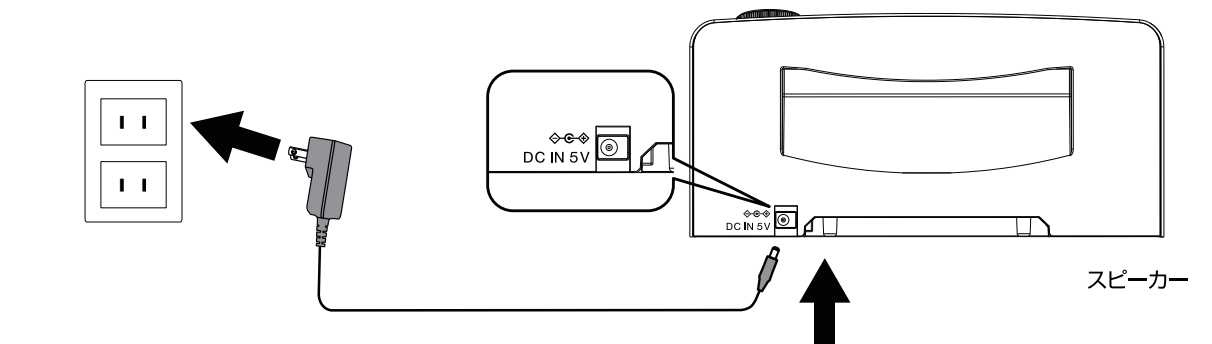
● 音声入力がない状態で送信機にACアダプターを挿し、電源を入れた場合、または送信機とスピーカーの通信中に音声入力が5分以上なかった場合、送信機とスピーカーとの通信が自動でとまり、省電力状態のスタンバイモードに移行します。スタンバイモードになると、送信機のスタンバイ / オンLEDランプは赤色に点灯し、スピーカーの電源LEDランプは点滅します。
● スピーカーはスタンバイモードに移行してから20分以上送信機と通信できなかった場合、自動的に電源が切れ、電源LEDランプが消灯します。再びご使用になる場合、一度電源 / 音量ダイヤルを左に (パチッと音がするまで) 回したあと、少し時間をおいてから再び電源 / 音量ダイヤルをゆっくり右に回し、電源を入れてください。
● スピーカーの電源を入れたときに、テレビ / AV機器が消音になっていた、付属の接続コードが正しく接続されていない状態で、送信機に音声入力されていないと、通信が始まらず、スピーカーの電源LEDランプが点滅します。テレビ / AV機器の状態およびコードの接続状態をもう一度確認してください。
● スピーカーの電源 / 音量ダイヤルの左にある電源LEDランプは通常緑色に点灯しますが、スピーカーの電池残量が少なくなってくると、オレンジ色に点灯します。オレンジ色に点灯した場合、スピーカーの専用充電電池を充電してください。
● 長時間使用しない場合は送信機のACアダプターを抜いてください。

●専用ACアダプターを追加購入して使用する

専用ACアダプター (33-18-0520-BE) を追加購入し、スピーカー一部に使用することで、スピーカーの電池残量を気にせずに使用することができます。ご購入の際はお問い合わせ窓口へご相談ください。

※付属の専用ACアダプターは送信機に接続する必要があります。

1. スピーカーの背面の電源 (DC IN 5 V) 入力端子にACアダプターを接続し、コンセントに差し込みます。



2. スピーカーの電源 / 音量ダイヤルを回すと音声が出力されます。

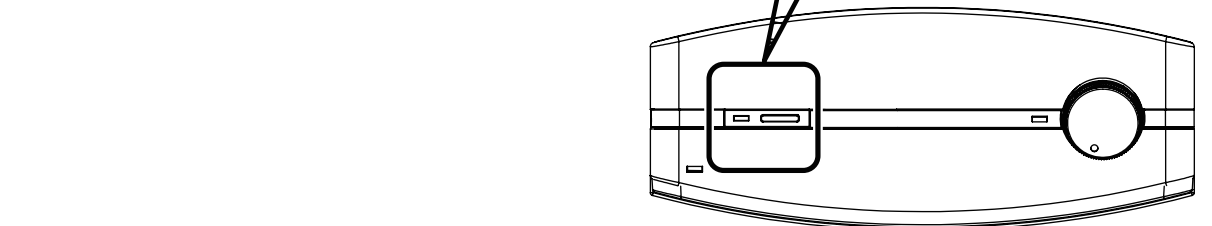
※ 専用ACアダプターを接続すると、スピーカーは充電されます。

※ 充電を外す場合は、ACアダプターを抜いた状態で行ってください。電池交換後、ACアダプターを接続すると充電を開始します。

※ 指定の専用ACアダプター以外は使用しないでください。

しっかり音機能

● スピーカー天面にあるしっかり音スイッチを押すと、テレビなどで流れているセリフを聞き取りやすく補正します。
● しっかり音が機能しているときは、しっかり音スイッチ上のLEDランプが緑色に点灯します。しっかり音スイッチをもう一度押すと、しっかり音機能が解除されます。



愛情点検	長年ご使用のオーディオ製品の点検を！	
	このような症状はありませんか	・ACアダプターや電源プラグが異常に熱くなる。 ・ACアダプターにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。
	ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、ACアダプターをコンセントから抜いて、必ず販売店にご相談ください。

オトモア株式会社

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-15-19 MG目黒駅前3階

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、次の項目をチェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。お使いの接続機器もあわせてお調べください。次の項目にしたがって、再度点検しても直らない場合は、お買い求めの販売店またはコールセンターにご相談ください。

症 状	処 置
スピーカーの電源が入らない	● スピーカーに電池が入っているかどうか確認する。 ● スピーカーの専用充電電池を充電する。 ● 電源 / 音量ダイヤルを左にパチッと音がするまで回したあと、少し時間をおいてから再び電源 / 音量ダイヤルをゆっくり右に回し、電源を入れる。
音が出ない	● テレビ / AV 機器、付属の AC アダプターが、送信機と正しく接続されているかどうかを確認する。 ● 音声切替スイッチが接続している入力端子にあった位置になっているか確認する。 ● テレビ / AV 機器の電源を入れて、再生を開始しているか確認する。 ● 入力 1 (光デジタル信号) に接続している場合 ・ 接続機器の出力信号がリニアPCMに設定されているか確認する。 ・ サンプリング周波数が48 kHz以下か確認する。 確認、変更する場合は接続機器の取扱説明書をよくお読みください。 ● スピーカーに電池が入っているかどうか確認する。 ● スピーカーと送信機両方の電源が入っているか確認する。 ・ スピーカーの電源 / 音量ダイヤルを回しても、左にある電源LEDランプが点灯 / 点滅しない場合は、スピーカーの専用充電電池を充電する。 ・ 送信機のスタンバイ / オンLEDランプが点灯しているか確認する。消灯している場合、ACアダプターが接続されているか確認する。 ● 接続機器またはスピーカーの音量を上げる。音量を上げてても音声が聞こえないときは、音量を下げてから他の項目を確認する。 ・ 音量を上げたまま音を出すのを覚めることがあります。 ● 次の項目を確認する。 ・ 送信機の近くでスピーカーを使用する ・ 送信機とスピーカーの周辺に、2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器や電子レンジなどがないかどうか確認する。 ・ 送信機的位置を変更する。 ● 送信機とスピーカーをベアリングする。 ・ ①他の項目を確認しても音が出ないときに行ってください。 1. 送信機からACアダプターを抜く。 2. スピーカーの電源を入れてしっかり音ボタンを5秒間以上押し続ける。 電源LEDランプの点滅が早くなり、ベアリングモードに切り替わったことを確認したら手を離す。
音がとぎれるノイズが聞こえる	● 送信機にACアダプターを差し込んで電源を入れる。 ● 送信機のスタンバイ / オンLEDランプが緑色に3秒間点滅し、ベアリングが完了すると音声入力されているときは緑色、音声入力されていないときは赤色の点灯状態になります。この時、スピーカーはビーと音が出て、電源LEDランプが点灯状態になります。 ※ スピーカーがベアリングモードになっても、約30秒間の間にベアリングが完了しない場合は元の状態に戻ります。 ※ 誤ってスピーカーをベアリングモードにしてしまった場合は、元の状態に戻るまで約30秒間待ちます。

保証とアフターサービス

保証書 (別添) について

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。保証書に販売店名や購入日の記載がない場合は、本製品のご購入の際に受け取られた、購入日が明記されている購入証明書 (レシート、納品書、受注メールなど) が必要となります。保証書とともに大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有可能期間

この製品の補修用性能部品の最低保有可能期間は製造打ち切り後 6 年です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

連絡していただきたい内容

● ご住所
● お名前
● お電話番号
● 製品名: ワイヤレスステレオスピーカーシステム
● 型番: VS-T500
● お買い上げ日
● 故障の状況 (できるだけ詳しく)

■保証期間中は:

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■保証期間が過ぎているときは:

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

お問い合わせ窓口

修理、取り付け、他の製品との接続などに関しては、お買い求めの販売店へお問い合わせください。お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、下記窓口へお問い合わせください。

【お問合わせ窓口】

サービス お問い合わせ
https://www.otomoa.com/product/support/

こちらからもアクセスできます→

